



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

オマーン情勢：ストライキや抗議行動の発生 (22日付オマーン・トリビューン紙他)

1. 22日付現地英字紙オマーン・トリビューン紙とアラビア語紙ワタン紙によれば、ブレイミ州（オマーン北部）のスクールバス運転手がストライキを実施した。
  - (1) 19日に始まったブレイミ州のスクールバス運転手によるストライキは、3日目となる21日も続いている。運転手らは、給料の引き上げ、給料の遅配防止、および休校期間に関する自らの要求が考慮されるまで、生徒たちの送迎を拒否する構えである。自分自身で子どもを学校へ送迎している両親もいるが、このストライキは生徒たちの学校への出席に影響を与えている。
  - (2) 運転手らは、低賃金と給料の遅配の問題について数年前から教育省へ訴え、対策を求めたが、何の取り組みもなされていないと訴えた。また21日にブレイミ州のジャブリ知事に宛てた彼らの要求の中で、仕事を見つけるのが困難な夏休み期間中給料が得られないことは非常に苦しいと述べた。
  - (3) ジャブリ知事は、この問題を教育省で取り上げることを約束し、運転手らに仕事を再開するよう求めた。
2. 23日付現地英字紙オマーン・トリビューンによると、22日、オマーンの多くの作家や知識人が、リビアの不安定な情勢に対し明確な姿勢を示すことを政府に促すため、オマーン外務省の前で平和的な抗議活動を行った。また彼らは、リビアにおける権利侵害を非難するよう政府に訴えた。
3. 24日付現地各紙によると、アリー宮内相は、緑の行進（2月18日にオマーンで行われた集団示威行動）の際に、参加者から提出されたメッセージは、全国民の公共の利益のためになるよう常に対処しているカーブス国王陛下に伝達されたと述べた。